

禁煙パンフレット教育の効用 —教師と生徒に行ったアンケート調査—

南部 春生*

要約：

昨年度は札幌市内中学1年生を対象に「体をむしばむもの・たばこ、シンナー、アルコール」パンフレット配布を報告した。今回はこのパンフレットが効果的に使用されているかを調査し、その結果は配布するならば十分に禁煙教育の時間を用意すること、また生徒はすでに煙草の害を熟知していること、親が喫煙していると、その子どもの喫煙率の高いことが判明した。

見出し語：禁煙教育、煙草の害、親子の喫煙率。

研究方法：

1. 研究対象と内容

- 1) パンフレットを配布した85の中学校保健主事にアンケートを配布、36.5%の回収成績。
- 2) 札幌市内の8中学校3年生、2,031人に対し、パンフレット配布の記憶、煙草の害、大人（教師）への意見などを記述させた。(1)

研究結果：

1. 保健主事へのアンケート調査

パンフレットの配布率はおよそ71%くらいと予想され、その他はパンフ不足か届けられていなかった。対象と決めた1年生への配布は50%で、指導に1時間をかけた学校は40%、特活指導に含めた学校は60%であった。生徒の10%は

パンフを見て驚き、30%が興味を示していたが、関心を示さない者が多く、教師の25%は効果あり、16%がまあまあ効果と評価、その内容は説得力があり、具体性のある内容とし、今後も継続的配布に努めるとともに教師の学校保健への取り組みが期待された。

2. 生徒へのアンケート調査

1) パンフレット配布の記憶：最低5.7から64.3%（平均27.3%）で、これは指導のあり方と強く関係すると考えられた。

2) 煙草の害の知識：90%以上の生徒がすでに知っていることと解答し、内容も正確である。従って以下の検討はSmoker（S群）とNonsmoker（NS群）に分けて行った。（2、

* 聖母会天使病院小児科

3.別表)

a) 家族の喫煙率～68.0%がS群で、父の喫煙率は61.3%、母のそれは22.9%であった。

b) 過去の喫煙はS群男子で35.4%、NS群は22.0%と低く、成人したら喫わないとする者が多く、女子も同様傾向だが男子より低い。

(4ab)

c) 病気の頻度～男女ともS群に多く、その内

1. パンフレットの件を覚えていない。(札幌・中3)

	男子	女子	計
北群 (H. T)	140 (8)	140 (8)	280 (16.5, 7%)
新川西 (S. W)	75 (10)	70 (8)	145 (18.1, 12.4%)
八軒堂 (H. E)	145 (6)	124 (32)	269 (38.8, 14.1%)
東月庵 (E. T)	177 (38)	165 (33)	342 (71.2, 20.8%)
光臨 (K. Y)	169 (46)	146 (28)	315 (74.2, 23.5%)
向隆 (K. R)	203 (84)	148 (68)	352 (152.4, 43.2%)
札西 (S. N)	116 (67)	142 (88)	258 (166.6, 64.3%)
計	1,025	936	1,961 (535.2, 27.3%)

● パンフレットは中1の時に読んである。
中3 男子 38, 女子 32 計 70 (25.3, 7%)
中島 (N) 中2 男子 37, 女子 36 計 73 (34.4, 6%)
計 男子 75, 女子 68 計 143 (58.4, 21.2%)

2. 家族の喫煙率 (親の喫煙率を知っている子は90%以上)

	父	母	計	喫わない
合計	847 (43.5)	346 (17.3)	1,193 (60.8)	623 (32.0)
1,945 (%)	父 61.3%	母 22.9%		

3. 煙草の容を知っている

	男子		女子	
	知っている	知らない	知っている	知らない
計 S群	635 (33.5)	44 (6.5)	604 (36.8)	20 (3.2)
NS群	362 (21.4)	33 (4.6)	255 (15.2)	22 (7.8)
合計 (%)	997 (54.9)	77 (7.2)	859 (42.0)	42 (4.7)

● S群: Smoker ●● NS群: Nonsmoker

4a. 煙草を吸った、吸いたくない

中3, 男子	過去		成人	
	吸った	吸わない	吸いたくない	吸わない
計 S群	238 (15.4)	434 (64.6)	187 (27.7)	488 (72.3)
NS群	77 (12.0)	273 (78.0)	47 (13.4)	302 (86.6)
合計 (%)	315 (30.8)	707 (68.9)	234 (22.9)	790 (77.1)

4b. 煙草を吸った、吸いたくない

中3, 女子	過去		成人	
	吸った	吸わない	吸いたくない	吸わない
計 S群	106 (16.0)	557 (84.0)	51 (7.8)	608 (92.2)
NS群	25 (3.1)	249 (30.9)	14 (5.1)	263 (94.9)
合計 (%)	131 (14.0)	806 (86.0)	65 (6.9)	871 (93.1)

容は“かせ”で占められていた。(5)

3) 大人に対する意見(6)

考察：中学生は煙草の害をよく知っており、無関心少数派に対する教育的配慮が必要である。また親子の喫煙率には高い関係があり、大人、教師、親の喫煙率減少が強く望まれる。

文献：平山 雄：予防ガン学，中外製薬出版部

5. 病気の件 (診断内容)

	男子		女子	
	S群 (666)	NS群 (366)	S群 (659)	NS群 (274)
病気を患くする	109 (16.4)	40 (11.3)	92 (14.0)	32 (11.7)
かせ	75 (11.0)	28 (7.2)	72 (10.9)	20 (6.9)
その他	34	11	20	12

● その他：気管支炎、肺炎、鼻血、嘔吐、下痢、アトピー性皮膚炎、じんましん、中耳炎、OD症状、関節痛、貧血、目が痛い、ぜん息、肺炎、腰痛、可哀、いろいろ。

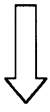
別表 煙草の害は知っている

	A	B	C	D	計 (%)
肺 (がん、汚れる)	108	87	60	48	303 (55.4)
がんになる	21	10	12	7	50 (9.1)
身体が悪い	9	13	3	6	31 (5.6)
早死にする	8	6	3	6	23 (4.2)
尿に影響する	13	7	1	1	21 (3.8)
思切れがする	11	5	1	1	18 (3.3)
成長に影響する	8	7	1	1	17 (3.1)
周囲に影響する	10	7			17 (3.1)

その他：体力低下 (11)、食欲不振 (10)、血圧が高くなる (6)、頭痛 (6)、体脂肪増 (5)、喉痛 (5)、胃痛 (5) など。

6. 生徒達の大人に対する意見

- 周囲の人に迷惑だからやめよう。
- 赤ちゃんに影響するからやめよう。
- 身体が悪いからやめよう。
- 寝タバコはやめよう。
- 食事の時は吸わない。
- 職員室のタバコはやめるべきだ。
- 先生が喫っているのに生徒に喫うなはおかしい。
- タバコは駄目というなら、大人はやめろ。
- 大人は勝手だ。大人ははずり。
- 喫っている人は自分に負けている人だ。
- 煙がくさくさいやだ。
- マナーを守ってほしい。(禁煙席、映画館など)
- 副流煙のほうがはるかに有害だ。
- 喫う時には周囲の人に断われ。
- ニコチンやタールの少ないものにするよ。
- タバコの害をもっと教えるべきだ。
- タバコの宣伝はしないでほしい。
- タバコ産業はやめろ。タバコを売んな。
- 黒い痰を吐かないでほしい。
- 中学生がタバコを喫うわけではないだろう。
- 喫いたければ喫ってもいい。
- がんて死ぬだけだ。早く死ねばいい。
- 全ての人に害があるわけではない。
- タバコを喫うのは個人の自由だ。
- 禁煙してもあまり意味がない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

昨年度は札幌市内中学 1 年生を対象に「体をむしばむもの・たばこ、シンナー、アルコール」パンフレット配布を報告した。今回はこのパンフレットが効果的に使用されているかを調査し、その結果は配布するならば十分に禁煙教育の時間を用意すること、また生徒はすでに煙草の害を熟知していること、親が喫煙していると、その子どもの喫煙率の高いことが判明した。